

回 教 世 界 (バウマン)

人口。約二億七千萬※の回教徒は大部分北米合衆國の約四倍即ち一千二百萬平方哩程の廣い帶狀の土地のうち又は其周圍に分布してゐる。其の地域は北部アフリカの地中海岸からスダンまで、東へアラビヤ及びアナトリア、波斯、アフガニスタン、印度西北部、露領トルキスタンを經て民國の西北部に至り、更にセレベス、スマトラ、マレー諸洲、ボルネオ、特にジャバワ等の重要な外帯を有する。カルカッタ地方、民國西部にも回教徒の集團があり、アフリカ東海岸に沿つてマダガスカル對岸の邊迄の地方にも其の一團がある。此等以外にも多くの比較的重要ならざる地方がある、アルバニヤ、ボスニヤの一部等はバルカン地方の一例であり、中部アフリカにも回教徒が散在してゐる。

*人口其他の計数は正確なる統計に乏しきため略数を擧ぐ其の分布左の如し。(括弧内は總人口)
(單位 十萬人)

モロツコ	五〇 <small>(六〇)</small>	アルゼリア	五〇 <small>(五六)</small>
佛領西アフリカ	五五 <small>(二〇)</small>	佛領ギニア	二〇
象牙海岸	八 <small>(二五)</small>	黄金海岸	一 <small>(二五)</small>
上ヅルタ	三 <small>(九)</small>	英領ニシエリヤ	四〇 <small>(六七)</small>
チユニス	一四 <small>(三二)</small>	伊領リビヤ	八 <small>(?)</small>
埃及	一一七 <small>(二八)</small>	スダン	三〇 <small>(三四)</small>
アブチ	一 <small>(二)</small>	英領ソマリランド	四 <small>(四)</small>
伊領ソマリランド	七 <small>(七)</small>	ケニヤ植民地	五
ウバンギシヤリ	一八 <small>(九〇)</small>	白領コンゴ	一五 <small>(五五)</small>
ケニヤ、タンガンイカ、葡領東アフリカ沿岸地方	二	タンガンイカ	五
葡領東アフリカ	一	マダガスカル	〇・五 <small>(五)</small>
バルカン地方	六	土耳其	七五 <small>(二〇)</small>
アルメニヤ	二五	シリヤ	二五 <small>(三七)</small>
メソポタミヤ	二〇 <small>(三二)</small>	アラビヤ	二四 <small>(二五)</small>
アルゼン	四〇 <small>(七五)</small>	波斯	九三 <small>(九五)</small>
バイシヤン	八 <small>(九)</small>	ツルガイ	六 <small>(七)</small>
ウラルスク	一三 <small>(二五)</small>	セミパラチンスク	八 <small>(九)</small>
アクモリンスク	六 <small>(六)</small>	ボハラ	一一 <small>(二三)</small>
トルキスタン	六〇 <small>(六七)</small>	新張、外蒙古地方	一二
アフガニスタン	六四 <small>(六四)</small>	印度	六六六 <small>(三三五)</small>

錫 器 三 (百七) 支那本部 六〇 (四七〇)
 馬來 諸州 一六 (二七) スアトラ 四〇〇 (四七〇)
 ホルネオ 二〇 (四五) シアア 四

此の廣大な地帯の大部分は年降水量十吋以下であつて、二十時の降水量がなければ此等の地方では、灌溉を爲さざる以上、農業を行はれ難いから、此の廣い地域も精々極く僅かの人口を支へ得るだけで、或は全く其の能力の無い地方も多い。年降水量十吋以下の土地を見ると、灌溉耕地の制限さるゝこと、特にモスレムの團結或は他地方侵略のための物的資源の蓄積なる見地よりせば、甚だ著しき事實を成すに至つてゐる。而も直接灌溉に倚賴する人民は、戰爭を支持すべき手段方法を他國へ持ち込み得るといふのではなく、左様な人民は全く土地に根を有つてゐるのである。鄰接の定住地方に脅威を與へるのは遊牧或は半遊牧を爲す社會であつて、斯る社會は、廣く分散してゐなければ、恐るべきものではない。

斯くて、回教世界の最も印象的な事實の一つ、

即ちモスレム治下領土の面積の大なることを先づ撤去した。之と密接に關係してゐるのは回教世界の境界近傍に於ける重要なモスレム團の分布である。例せばジャワの三千五百萬の回教徒は農業方面に於て高度の生産能力を有し、自足の域を越えて他地方へ食料品を輸出してゐる。併し此事實以上に、回教徒團結を成し遂げ或は此の團結を政治上の運動で現はすことに於ては、彼等は殆ど無きが如しである、其はジャワが島であつて西歐諸國が海を支配してゐるからである。

回教世界に突入つてゐる海は諸多あるが、モスレム支配下にあるものは一つもない。但だボスフォラス海峡だけは、回教世界に於て支配權といふものが重大な問題として議せらるゝ唯一の地點である。又たモスレム人民は埃及に集團してゐるが、此の地も海と沙漠とに圍まれてゐる。従つて征服者に有效なる抵抗を爲す點から言つても、遠隔の諸國に其の勢力を振ふといふ點からも、海が歐人の支配下にある限り、他の

モスレム世界から孤立して居るのである。

海上支配の重要、現在の状況と、モスレムが歐羅巴を脅かせしのみならず此に侵入せし過去の状況と、其の間の主たる相違を成すものは實に海上支配と現代産業の統制とである。回教徒が西班牙を占領しバルカンを従へて歐羅巴を脅かした時代には、歐羅巴は共通の目的を達成するに有效な組織を成すことが出来なかつた、それは恰かも今日のモスレム世界の如くである。

歐羅巴には當時廣大な森林があり、其の道路も主として歩行用で車輛交通には用ひられず、現代の戦争の基礎である物資といふ點から見ても現代産業に似たものはなかつた。其時以來、森林が開拓せられ、道路が築造されたのみならず廣く鐵道網が各地方を連ね、就中技術上の成果を海の支配の方面に向けたので、今日では苟くも長い戦争を續けようといふ所では何處でも、海が決定的要因である。

此の事實の回教世界に對する關係を了解するために鐵道の場合を考へて見よ。回教世界内の

諸鐵道が大部分は短い、連絡のない線か、他から建設管理さるゝ幹線の延長である。佛領西アフリカの諸鐵道は其の土臺を海に置いてゐて、充分佛國の力の及べる地方を走つてゐる。埃及でも同様で其の鐵道をシリアのそれとの連絡は戦争中に戰略線として建設され、海上權を有する國が此を容易に支配し得る様海に近く布設されてゐる。波斯灣頭の鐵道も波斯灣の支配權に本づいてゐる。回教世界の邊境は二三の例外はあれど比々皆然りである。

諸鐵道の地理的位置は、此を一致團結の紐帶として又は或は政策を支持する趣向として用ふることを不可能ならしめ、殊に鐵道が可動性を缺いてゐるといふ事が、海上支配の立場からすれば、其の價値を大に減損せしむる所以である。他面戰艦は甚だ可動なる一體であつて、其の建造に於ても操縦に於ても高度の技術上の熟練を表はしてゐる。土耳其以外にも回教世界全體に一隻の戰艦を建造し或は動かすだけの技術も發達してゐない。戰艦又は艦隊が彼處此處と移動

して、或る地點に人と物資とを持つて行くことが出来るのに對して、鐵道は不動である。戰略上の意義よりして此を動かす得ない。鐵道は此を建設するにも動かすにも戰艦程高度の複雑な技術を必要としない。加之殆ど例外なく、鐵道は海岸では只だ一箇の點となる、此の只だ一箇の點といふものは殆ど總ての場合に於て、何等特別の戰略上の重要さを有せざるに近きものである。

沙漠なる環境によつて課せらるゝ諸制限。最も重要なものはモスLEM住地の環境である。モスLEMの住む土地の過半には沙漠の状態が存する。砂、岩石、暑熱、水の絶無又は甚だ稀少なること、疎にして散在せる秣草、改良されざる自然の交通路、此等のものが沙漠住民の同盟者である。侵入者が沙漠へはいつて來ると此等の同盟者は土人のために戰ふ。一九一六年メキシコに於けるパーシングの例を見れば之は明らかである。彼は北部メキシコの沙漠地帯へ深く突入したが、何等主要なる都邑を獲ず、また大多

數のメキシコ人の生活に何等の變化をも來さしめなかつた。パーシングの遠征は、主としてメキシコ人とはなく、メキシコの沙漠で單に生きて行くことに就ての困難な諸條件と戰つたのである。

沙漠の住民が他地方へ彼等の物資を持つて行くかとする場合には、此を集めるために彼等は恰かも侵入者と同様の戦ひをせねばならぬ。侵入者を恐れしめた水の缺乏が此度は自分を苦しめることとなり、運送路線も少なく、港は大抵自然の儘であり、軍隊を動員しても充分な給養地が無い。斯くの如く彼等自身の環境が彼等を敵とするのみならず、彼等は其の主な同盟者をあとに残さねばならない。沙漠の住民が其の敵の環境の裡に戰ふこととなれば、其の人数、熟練、物資は何れも敵の其等のものに同等の條件で面するのである。敵に對して沙漠といふ有利な地理的條件を利用することは出来なくなる。既に對等の立場に立てば、彼等と其の敵との間の懸隔は現代に於ては到底彼等に歩のない

位に大きいものである。

茲にモスレムが産業を發達せしむるに就き自己の土地に如何なる能力を有するかといふ事と、彼が歐羅巴へ征め入る時に彼に對抗する物質上の力とを見よう。第一に交通の自然的方便であるが、回教世界には内陸流域が廣く且つ降水量少なき事を考ふれば、二三の場合の外は交通の自然的方便が缺如せることを悟る。ナイルティグリスニユーフラテス、ゾオルガは最も著しい例外で、モスレムの人民の接してゐるのはブルガ下流だけで、其の人口も非常に少ないから、此も回教世界の二大單位の連絡線を形づくらない。内陸流域では勿論河川を海へ出ずに反對の奥地へ入り込み、而も其の流域の少くとも三分二以上に互つて間歇的な降雨があるだけなので、水路は商業上只だ地方的價値を有するのみ、また給水源としても價値小である。大部分の河流は單に乾いた河床で、乾燥期の間に長い隔たりがある場合の外は水が流れず、時々水溜が出来るだけである。此の内陸流域に更に出口

は海ではあるが、通例間歇的に河流の生ずる廣い沙漠地方を加へねばならぬ、此等地方では上述の弱點は同等若しくは一層強く作用してゐる。(未完)

朝鮮雜信

◆平安北道道廳の移轉 從來平北の道廳は義州にあつたが昨年の暮から其の西四里の新義州に移つた。義州は昔に朝鮮から支那への陸路の交通路に衝つて居たが現時の鐵道線外にある。新義州は我領土の北西隅の交通要點であつて此の移轉と共に滿洲との交綏に關し一層便利になつたわけである。平北の觀察使はもと寧邊に居つたので統轄府として二度變つたのである。

◆釜山要塞地帯と恣る 本年七月から釜山の前面を扼する牧の島を中心として釜山市街を包擁した地域が要塞地帯となり従つて關釜連絡線の終始の兩點では攝影等が出来ないことゝなつた。而して同要塞地帯は鎮海要塞司令部の所管に屬する。